

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【授業担当者】

所属/職名：保健学研究科/教授

氏 名：山本直子

授業科目名	実践助産学演習
研修先 (大学・国・都市名)	Queen Charlotte's and Chelsea Hospital, Children and Family Centre, イギリス, ロンドン
研修期間	令和 6 年 3 月 13 日 ~ 令和 6 年 3 月 20 日
<p>〔研修の目的・概要〕</p> <p>本プログラムは、本研究科助産学コースの「実践助産学演習」科目の一部である。助産学コースでは、高度な知識技術を習得し、国内外を問わず活躍できる助産師の育成を目指している。そのため海外での助産師活動の実際に触れることは学生にとって重要である。我が国の母子保健や助産師教育はイギリスを模範にしていることから、イギリスを研修先とした。出産施設・子育て支援施設等助産師活動に関連の深い施設を見学する。また、助産学生との意見交換を行う。イギリスの医療・社会保障制度、助産師の活動の実際を学び、グローバルな視点から日本の母子保健の課題と解決方法の考察及び助産師が行うケアについて考察できる能力を養う。</p>	
<p>〔研修の成果〕 * 事前・事後学習も含む。研修の目的や学習成果の達成状況について、また地域のグローバル化や活性化に資する人材育成の観点からの成果についても記載して下さい。</p> <p>研修目的はイギリスの医療・社会保障制度、助産師の活動の実際を学び、グローバルな視点から日本の母子保健の課題と解決方法の考察及び助産師が行うケアについて考察できる能力を養うことである。事前学習については、研修目的を達成できるよう、以下の事前学習を行った。人口、生活習慣、宗教等イギリスの概要、当該地域での医療機関の見学や助産師を含む専門職にインタビューするため、医療・保健制度の成り立ち、看護師及び助産師免許取得のための教育制度等、海外在住日本人妊産褥婦が直面する問題と助産ケアである。これらから日本とイギリスの相違点や共通点を事前に把握できるようにした。事前学習は講義時間内にオリエンテーションを行い、講義時間外で学習を行うよう指示した。グループ学習とし、学生全員が事前学習した内容を共有できるようにした。学習の成果の達成状況については、ロンドンのNHS(国営病院)の周産期施設の助産師へのインタビューからイギリスの医療・社会保障制度の情報収集や助産師の活動の実際を学ぶことができた。当該助産師が日本国籍で日本で助産師免許を取得し、イギリスで就業しているため日本とイギリスの助産師教育課程の違い等も学ぶことができた。加えて看護師教育制度については、leadsのNHS(国営病院)の小児科病院の准小児科医(日本には存在しない職種)のインタビューで情報収集できた。事前学習を行っていたため大まかなイギリスの医療制度について理解できていたが、書籍やウェブ上で情報収集不可能である助産師活動の実際については現物を見せてもらったり話を聞くことで学びを深めていた。当該病院で実習している助産学生にもインタビューを行い情報収集できていた。また鹿児島県、鹿児島大学及び本助産師コースについてプレゼンテーションし、当該助産師や助産学生に興味を持ってもらえた。今後は学内及び学外で活動報告会を計画している。また、所属施設の紀要に活動報告を投稿する予定で、成果を地域に発信する予定である。凡そ研修目的は達成できたと考える。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>今回イギリスの助産師学生との交流は学生から特に好評であり有意義であったと考える。見学施設の助産師が実習中の学生と交流出来るよう手配して下さい、交流することが出来た。今後は大学間での学術交流を行い多くの助産学生と継続的に交流出来ることが望ましいと考える。また教員も研究を通して交流できるような基盤作りが必要だと考える。学生の渡航費用の支援を頂き心から感謝申し上げます。</p>	